コンセプトから学び始める

Redux入門

そもそもReduxって、なんだっけ?

Reduxの役割

- ✓ モダンな開発では必須のフレームワーク
- ✓ SPÄなどのリッチなUIを作る技術の登場に伴い、フロント側の状態管理が必要に
- **✓** グローバルなState管理を担当

ReduxがStateを管理?

ReactのStateが肥大化・複雑化

→Webアプリケーションにおける、

グローバルな状態管理の構造や設計が必要に

例)チャットアプリ

ログイン情報の管理

メンバーの一覧

メンバーの詳細情報

etc...

企業での使われ方

- 会社規模の複雑性を持つアプリであればグローバルのState を管理する仕組みが必要
- Reactを採用している企業の多くで採用されている。

→Reactを使うフロントエンドエンジニアであれば知って おきたい

つまり

<アーキテクチャ>

Reduxとは設計思想

アーキテクチャとは?

原型: Fluxアーキテクチャ

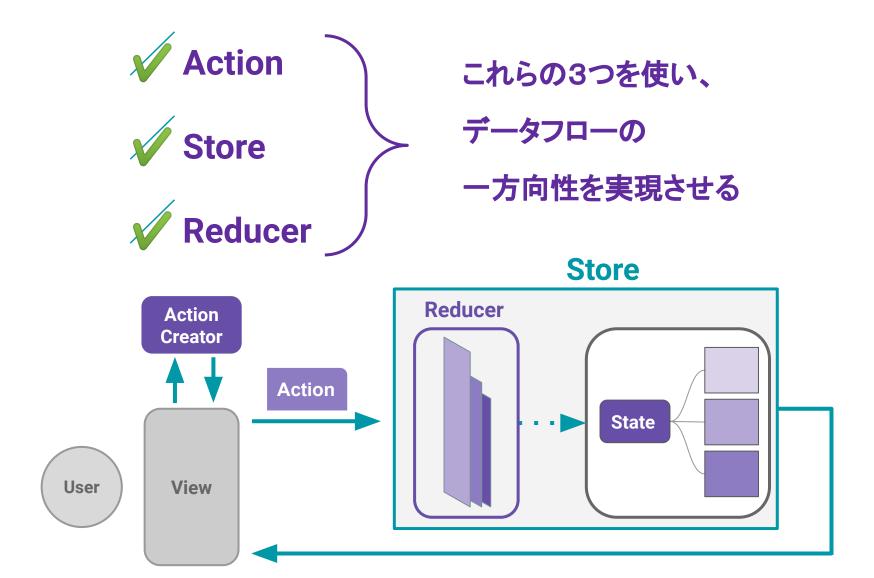
Facebookが提唱。データの流れを一方向に限定し データ状態の複雑さを軽減させようとする設計思想

React → **Redux**

Vue → **Vuex**

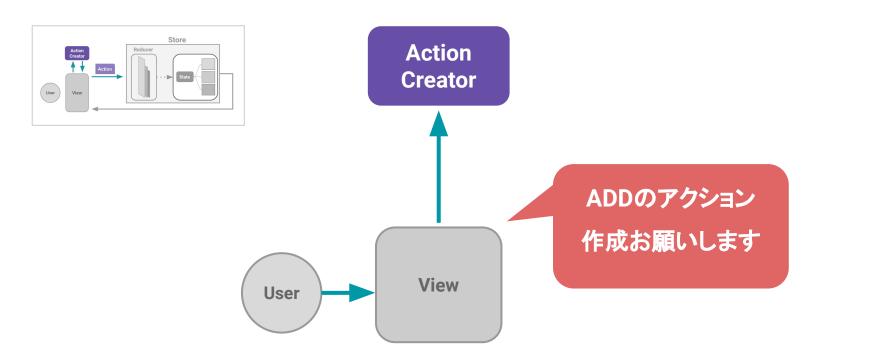
Fluxの概念から派生。
Reactで管理する状態を
ひとまとめにしてRedux
で管理することに

Reduxの構造



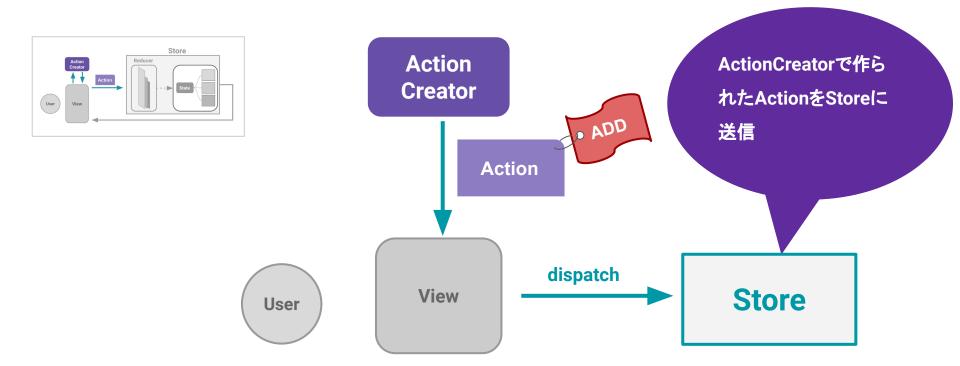
Action

Stateの変更が必要なユーザーの入力が発生した場合に、ActionCreatorメソッドに入力内容が 渡されActionオブジェクトを生成



Action

Stateの変更が必要なユーザーの入力が発生した場合に、ActionCreatorメソッドに入力内容が渡されActionオブジェクトを生成



Action

何のためのActionなのか、ラベル(Type)をつけて返す

```
// Action Type:
const ADD_TODO = 'ADD_TODO'
const REMOVE_TODO = 'REMOVE_TODO'
// Action Creators:
function addTodo (todo) {
   return {type: 'ADD_TODO', payload: todo };
               生成されるActionオブジェクト
function removeTodo (todo) {
   return {type: 'REMOVE_TODO', payload: todo };
```

Reducer

発行(Dispatch)されたActionを識別し、
Reducer内の対応するメソッドを使って新しい
Stateを生成
Store

Reducer

New State

Reducerの例

```
const initialData = {
   1: { id: 1, text: "brush a tooth"},
   2: { id: 2, text: "wash a face"},
   3: { id: 3, text: "drink a coffee"},
}

const initialState = {
   index: Object.values(initialData).length,
   data: initialData
}
```

【ルール】

- ・必ずイミュータブルに保つ
- ・副作用を起こさない pureな関数に保つ
- ・オブジェクト自体の書き換えはしない

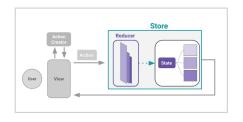
```
const reducer = (state = initialState, action) => {
   let newState = {...state}
   const { id, text } = action.payload || {}
   switch (action.type) {
       case ADD TODO:
       newState.index++
       newState.data[newState.index] = { id: newState.index, text };
       return newState
     case REMOVE_TODO:
       let newData = {...newState.data}
       delete newData[id]
       return {
         ...newState,
         data: newData
                                   Actionのtypeを元に、
     default:
         return state;
```

Store

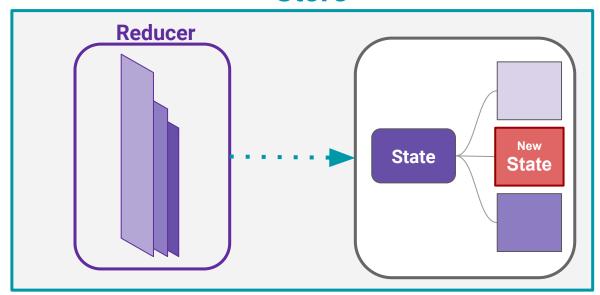
※グローバルに保持する必要ないState、簡単なStateはReactを そのまま使う場合も

アプリケーション内で1つ存在し、グローバルで管理が必要なStateを保持

Reducerから生成されたStateに置き換えられる



Store



Storeの作成方法

作成したreducerを元に、 createStoreメソッドで作成する

```
var store = Redux.createStore(reducer);
```

```
const store = Redux.createStore(
    combineReducers({
        user: userReducer,
        content: contentReducer
    })
);
```

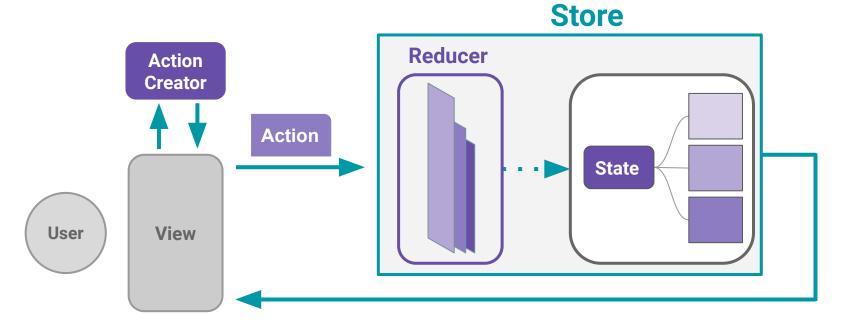
アプリケーション/Storeを構成する オブジェクトの構造が複雑になった 場合、Reducerを複数の関数に分 割、Stateを分けて処理することも可 能

Redux導入のコンセプト

データフローを一方向にし、単純化。Reactとの 役割を分割

React: View担当

Redux: Stateの管理・変更担当



でもけっきょく どうやってReactと繋げるの?

Reduxは独立しているので 専用のモジュールを使う

react-reduxライブラリの導入

react-reduxライブラリ

ReactとReduxを結びつける定番パターンのライブ

ラリ。コンテナーを使ってReduxのStoreとconnect

してあげる

か、contextAPIを使ったり自分 でつなげることもできる。 より良い方法を模索していく

コンテナー(container)



✓ Stateを変更するためのAction(Dispatch)

上記2つを、Reactコンポーネントにプロパティ

(props)として流し込めるようにするための箱

Reduxと連携① コンテナーを作る

container/AppContainer.js

import React from 'react'

import { connect } from 'react-redux'

(1) ReactコンポーネントAppとReduxを繋ぎたい

(2) AppにPropsとして流したい、 必要なStateとActionを名前をつけて指定(準備) mapStateToProps:StoreのどのStateが必要か mapDispatchToProps:どのActionを使うか (dispatchするか)

(3) connectでAppと繋げ、Propsとして使えるように

export default connect(mapStateToProps, mapDispatchToProps)(App)

Connectメソッドはコンテナを作成する
→今回はファイル名「AppContainer」
というコンテナが生成された

Reduxと連携② Storeの作成と連携

index.js

```
import React from 'react'
import { render } from 'react-dom'
import { createStore } from 'redux'
import { Provider } from 'react-redux'
                                                   (O)コンテナをインポート
import AppContainer from './container/AppContainer'
import reducer from './reducer'
                                   (1) 作成・インポートしたReducerを元に、
const store = createStore(reducer)
                                      Storeを作成(createStoreメソッドを使用)
render(
 <Provider store={store}>
                                   (2) react-reduxのProviderにstoreをPropsとして渡す
   <AppContainer />
                                   (3) 作成したContainerを設置し、StoreとAppを繋ぐ
 </Provider>,
 document.getElementById('root')
```

Reduxと連携② Storeの作成と連携

```
index.js
```

```
import React from 'react'
import { render } from 'react-dom'
import { createStore } from 'redux'
import { Provider } from 'react-redux'
                                                    (O)コンテナをインポート
import AppContainer from './container/AppContainer'
import reducer from './reducer'
                                    (1) 作成・インポートしたReducerを元に、
const store = createStore(reducer)
                                      Storeを作成(createStoreメソッドを使用)
render(
  <Provider store={store}>
                                                         にstoreをPropsとして渡す
                                    (2) react-redux OProvid
   <AppContainer />
  </Provider>,
                                   (3) 作成したContain
 document.getElementById('root')
```

※コンポーネント内での使い方

App.js

StateもStateの書き換えも Redux側での動作になるため、ReactはViewに特化で きるように

ね、簡単でしょ?

Reduxって ファイルを分けたり 結構複雑

なので代替手段が 生まれつつあります

Reduxの今後的な





などもう少し手軽な状態管理ライブラリがあるので

使わなくなる可能性も

ReactのHooksにも Reduxと同様の機能あり

まとめ

Reduxはアーキテクチャ

データフローの一方向性 グローバルな状態の管理

フロントエンドを目指す人、 自作アプリを作る人、 ポートフォリオを作る人、

モダンな開発をする人なら 知っておこう

ありがとうございました